

## 平成26年度事業概要

社会福祉法人佐渡福祉会定款の目的にもとづき、障がい者支援施設（岩の平園、第二岩の平園）、障がい福祉サービス事業（そよかぜ、あんずの家、まつはらの家、グループホーム）、相談支援事業、障がい者就業・生活支援センター事業の円滑な経営に努めた。

法人機構改革の協議を行い、法人本部機能強化のため常務理事の新設及び専任事務局長を配置、園長4名で平成27年度に新たな体制でスタートする。

岩の平園では6月に園構内での車両事故により利用者の尊い命が失われた。この戒めにより岩の平園はもとより、他の施設においても更なる安全対策に取り組んだ。また3人部屋解消を計画したが、国県の補助の対象にはならず計画を断念し、他の対策を検討することにした。

第二岩の平園では利用者2名の方が病気で亡くなった。また、感染性胃腸炎の蔓延や風邪・インフルエンザの流行が防げず、健康面での援助の重要性を強く認識した。設備面では改築の補助申請が承認されなかったため、計画的な改修が今後の課題となる。

あんずの家では3名の新たな利用者がいた。相談支援事業やハローワークとの連携により施設外支援や就労及び生活支援の充実を図った。

まつはらの家では新規利用者が2名、退所者が1名であった。特に、就労移行支援事業は定員（10名）割れとなり、昨年に引き続き収支の面では厳しいものとなった。

そよかぜでは定員を14名から16名に変更し、新規利用者が2名増員した。栄養士を配置し食事面でのサービス向上を図った。

グループホームでは長期入院者や高齢者施設への転出者もいた。今後は、高齢化対策や医療ケアも必要になってくる。

短期入所事業では、利用者の増はなかったが、定期的な利用者があった。

相談支援事業は、他事業所との連携により、計画作成率はほぼ100%となった。また、基本相談支援は、新規相談の中で困難なケースが多く、対応に苦慮している。

障がい者就業・生活支援センターあてびは、就業支援担当者の定着加配を受け業務を行った。登録者は年間30人程度増えている。情報の収集や共有など関係機関と連携を図っていくことが今後の課題となる。就職・実習はセンター委託要件を上回った。

ジョブコーチの配置については、各種団体からの要請があり、緊急雇用創出基金の利用で県と事業契約したが、該当者が見つからず契約解除となった。